YAMAHA

ProjectPhone

PJPシリーズ導入事例 04

住友金属パイプエンジ株式会社様

導入機種 ➔ PJP-100H／12台

導入時期 ➔ 2007年2月

基本構成 ➔ 本社を初めとする全国9つの事業所に12台のPJP-100Hを導入、最大で同時8拠点の会議を実現

会社概要

創立	1962年8月
資本金	28億円（住友金属工業100%出資）
従業員	473人（2007年3月31日現在）
売上高	265億7900万円（2007年3月期）
事業内容	パイプラインやプラント建設を中心としたエンジニアリング事業
本社所在地	大阪府堺市堺区出島西町2
URL	http://www.smipe.co.jp/

全国9つの事業所を、12台のPJP-100Hで結び、最大で同時8拠点のIP音声会議を実現しました。

PJP導入の背景

既存の電話会議システムの音質と高コストが課題に。

- 以前から全国拠点で電話会議を実施
- 音質の悪さで会議に集中できず
- 非常に高額な運用コスト負担

パイプラインやプラント建設を中心としたエンジニアリング事業を展開する住友金属パイプエンジ様は、北海道から九州まで、全国に事業所を展開しています。一堂に会しての会議が困難であったため、同社では10年ほど前にアナログ電話回線による電話会議システムを導入しました。しかし未解決の問題が2つありました。1つは、音声が聞き取りにくかったことです。何を言っているのか、誰が話しているのかが不明確で、しかも同時会話ができない“トランシーバー”状態。音声に集中するあまり、肝心の会議の内容に集中できなかったといいます。もう1つは、運用コストが高額だったことです。電話会議のサービス使用量が月に約20万円、さらにそこに回線使用料が加算されるため、非常に高額なコスト負担となっていました。こうした課題を解決するために2007年2月、PJP-100Hが導入されました。

PJPを選択した理由

自社の必要要件を吟味した結果、音質と使い勝手の良さが決め手に。

- PJP-100Hの音質の良さを実感
- 誰もが簡単に使えるシンプルさ
- 価格も手頃で、運用コスト無料

新しい会議システムを導入するにあたり、同社では当初TV会議システムも検討しました。しかし価格の高さがネックとなり、断念。また資料や画面をリアルタイムで共有する必要性もさほど高くなかったため、音声会議システムに絞って機種の選定を進めました。決め手となったのは、PJP-100Hのデモンストレーションで、その音質の良さを導入責任者が実感されたことです。音切れやエコーがなく、普通の同時会話が可能。また以前の電話会議システムは、機器を置く場所によって音質が変わっていましたが、PJP-100Hは会議室の中央に置くだけで音声が安定しました。さらにPJP-100Hは余計な機能が排除され、IP通信に特化した極めてシンプルな設計だったことも、同社のニーズに合致。価格も手頃で、全国の拠点で誰もが簡単に使え、しかも運用コストが無料である点も高く評価されました。

PJP導入の成果

全国の事業拠点を結ぶコミュニケーション基盤に。

- 社内ユーザーから高く評価
- 使用頻度が高くても運用費無料
- 今後は電話帳サーバ活用も検討

同社では現在、堺本社を初めとする全国9つの事業所に12台のPJP-100Hを設置し、最大で同時8拠点の円滑な会議を行っています。多拠点接続に関するマニュアルも配布されており、社内ユーザーからは「音質が良く、操作も簡単だ」と好評を博しています。以前は、会議システムの音質の悪さから電話で済ませるケースも多かったようですが、現在ではPJP-100Hを誰もが頻繁に活用。いくら使ってもコストがかからないため、管理スタッフも安心しています。同社では今後、多拠点接続の手順をより簡単にしたり、ヤマハの電話帳サーバであるRTV01を活用してアドレス帳を一元管理することも検討中。PJP-100Hによる社内コミュニケーションのインフラ整備を、より一層進めようとしています。

ご導入いただいた機種

PJP-100H

希望小売価格:294,000円(本体価格 280,000円)
JANコード:49 60693 23263 7

通信機能を内蔵、ブロードバンドや企業内LANと接続可能なIP電話会議システム。高音質で、設置・設定も簡単!

YAMAHA

PJPシリーズ導入事例
住友金属パイプエンジ株式会社様

社内LANにつなぐだけで、すぐにIP接続による最大8拠点の音声会議が実現。ヤマハの音響技術の粋を集めた、高性能会議システムです。

お客様の声

高音質の同時会話ができ、しかも運用コストはゼロ。まさに当社が求めていた多拠点会議システムでした。

「ヤマハのPJP-100Hを、高く評価しています。何よりも、全国の事業所を結んだ多拠点会議が、ごく普通に行えるようになったことが画期的でした。音質が良く、同時会話ができ、誰でも簡単に使えて、しかも運用コストがかからない。まさに当社が求めていた会議システムだったといえます。現在では、全国8拠点をつないだ週1回の朝会、月に1会の部長支店長会議のほか、営業や現場同士の打ち合わせなどでも頻繁に使われています。最大8拠点をカスケード接続する方法は、最初は少し難しい面もあったようですが、簡単なマニュアルを配布することで、今では極めて円滑に運用されています。PJP-100Hを使った社内コミュニケーションの活性化は、確実に前進していると実感しています。」（榎並谷様/石川様）

人事総務部兼企画業務部
榎並谷勇人様

企画業務部情報システム室
石川壮一様

PJP-100Hのカスケード接続

カスケード接続の手順をマニュアル化。今後はより高度な多拠点会議の運用も検討しています。

住友金属パイプエンジ様では、多拠点会議を実施する際、会議主催者がカスケード接続の具体的手順を事前にメールで指示しています。例えば「堺（親機）は、名古屋（親機）と和歌山（子機）と堺（子機）へコール」といった具合です。2拠点から最大8拠点までの各接続パターン別に、こうした接続手順がわかりやすくマニュアル化されているため、極めて簡単に接続が可能。PJP-100Hを電源とLANポートにつないでから、各拠点へコールし接続完了するまで、わずか数分です。同社では今後、ヤマハが提供している会議招集アプリケーション（無料）や、電話帳サーバ（RTV01）などの活用も検討し、アドレス帳の一元管理や、通話履歴の検証など、より高度な多拠点会議の運用を目指しています。

LANケーブルに接続するだけで、誰でも簡単に使えます。

社内作成の接続マニュアルで、円滑な運用を実現しています。

PJP-100Hの特長

ヤマハの音響技術を結集させたPJPシリーズ。新しい形の会議システムを実現します。

IP接続

社内LANにつなげば、すぐに高音質な音声会議を実現

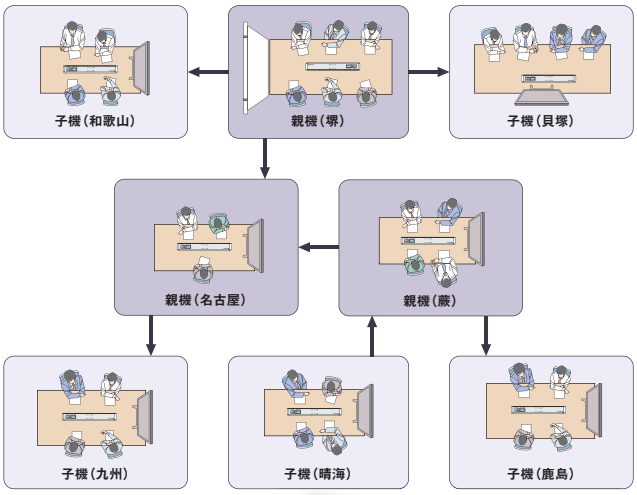
IPアドレスを割り振ったPJP-100Hを社内LANに接続すれば、各拠点間の高音質音声会議がすぐに実現。MCU（多地点接続装置）なしで、最大8拠点までの音声会議が可能です。またPJP-100Hは、7kHzの広帯域で会話が可能です。これはアナログ電話（3.4kHz）の約2倍。人間の声の周波数をほぼカバーするため、声だけでも誰が話しているかわかり、臨場感のある会議が実現できます。

双方向の会話

音切れやエコーを消去し、円滑な双方向会話が可能

一般に会議システムでは、スピーカーから再生された音がマイクに回りこんでしまうことにより、エコーが発生します。PJPはエコーキャンセラーによりその音を的確に除去。より聞きやすく話しやすい、スムーズな双方向会話を実現します。またPJPの高性能適応型エコーキャンセラーは、使用されている環境を学習して自動的に調整します。そのため、いつどこで使ってもエコーや音切れが発生しません。

住友金属パイプエンジ様の8拠点カスケード接続例



PJP-100Hの概要

●寸法／750（幅）×100（奥行）×65（高さ）mm　●重量／約2.9kg（電源アダプタ含まず）　●電源／AC100V 50/60Hz　●形状／音声会議機器
●対応プロトコル／UPnP対応、SIP準拠、DHCP　●LANインターフェース／10/100BASE-TX　●音声符号化方式／G.711拡張独自方式（fs=16kHz）G.711（μ-Law）G.726
●音声インターフェース／アナログ音声入出力（径3.5mmステレオミニジャック）、周波数帯域:300～7000Hz、本体スピーカー:アレイスピーカー12個、音量:85dB（0.5m）以上、本体マイク:アレイマイク16個×2列、指向性制御機能
●その他機能／適応型エコーキャンセラー、ノイズリダクション、多地点音声会議機能（メッシュ接続最大4地点、カスケード接続最大8地点）、ファームウェアリビジョンアップ機能（HTTP、TFTP）

⚠ 安全に関するご注意　●本製品の設置、ご使用に関しましては取扱説明書などに記載されている注意事項や禁止事項をよくお読みの上、必ずお守りください。

YAMAHA
感 動 を ・ と も に ・ 創 る

プロジェクトフォンお客様ご相談センター
■ お電話によるお問い合わせ先　☎053-460-2822　■ FAXによるお問い合わせ先　053-460-2829
ご相談受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00（土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます。）
◎会議システム プロジェクトフォンの最新情報はこちら　http://www.yamaha.co.jp/projectphone/

このパンフレットは無塩素漂白（ECF）パルプを使用しています。
このパンフレットは再生紙と大豆油インクを使用しています。

製造元　ヤマハ株式会社　サウンドネットワーク事業部　〒430-8650　静岡県浜松市中区中沢町10-1
2007年7月作成　カタログコード　MPJPD0004